



この
神界
は居に
ない

この世界は居ない
松本ドリル研究所



おっけい
おっけいおっけいおっけい

おっけい
おっけいおっけい



おっけいおっけいおっけい

おっけい
おっけい



おっけいおっけいおっけい

おっけい
おっけいおっけい

おっけいおっけいおっけい

おっけいおっけいおっけい

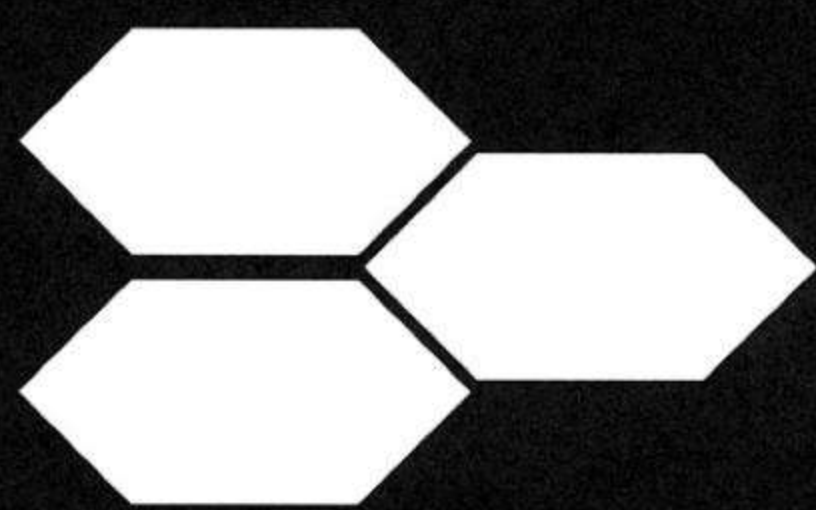
おっけいおっけいおっけい

おっけいおっけいおっけい

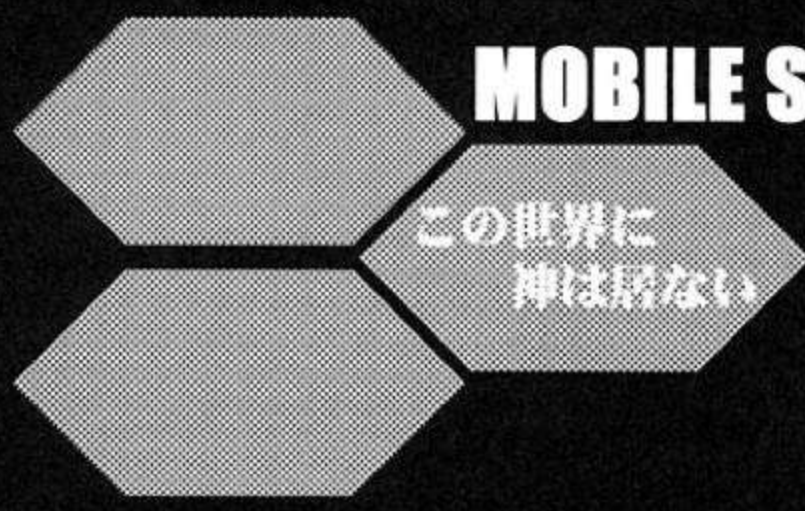
おっけいおっけいおっけい

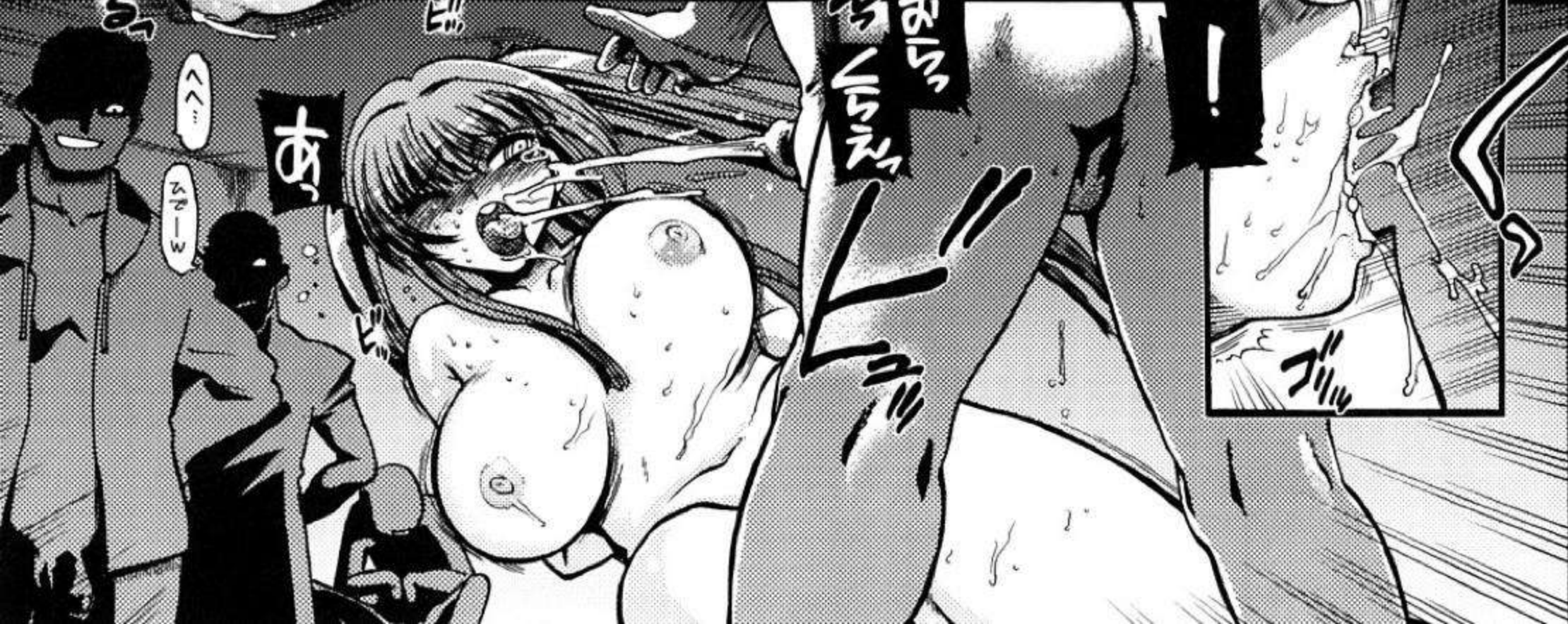
おっけいおっけいおっけい

おっけいおっけい
おっけいおっけい



MOBILE SUIT GUNDAM 00







王留美…
こんな大物まで
C・Bに関わって
いたとはな…

ふむ…

ん…
グキョウ…

上層部の要求どおり
二重スパイとして
送り返せるよう
調教すると
なりますと…

なかなか
難しいもの
でして…

人を物のように
扱うのはおまえ達の
得意とするところ
だと覚えているが？

これは
手厳しい…

調教の方は
どうだ？

予定どおり
進めております
ですが…



まあ 要求どおりと
なりますと
まずは心を壊す
ところから始めます



おらっ 休むな！
ソレスタルビーニングの
エージェントさんよ！



あらゆる方法で
徹底的に個人の
尊厳を奪いさり

その上で脳と身体に
「教育」を施します
二週間もあれば完了かと



そうか
こいつらには
相応の罰を受ける
義務がある

手を抜くなよ

は…



あーあーあー

あっ

あー



うげっ！
汚ったねえ

ぶち
込んだ精子
吹き出し
てんぞ！

あーあー

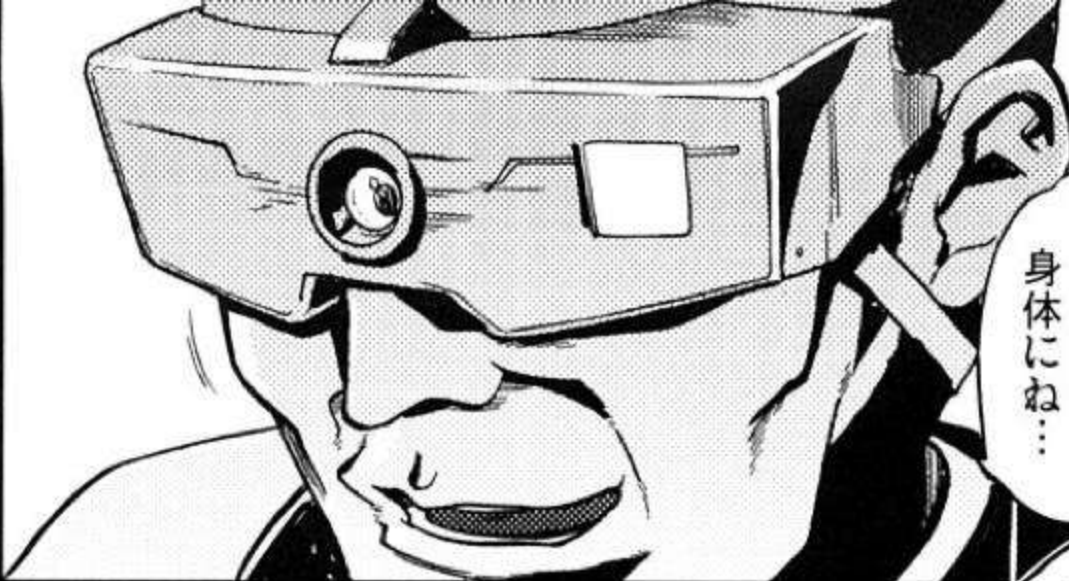
あー

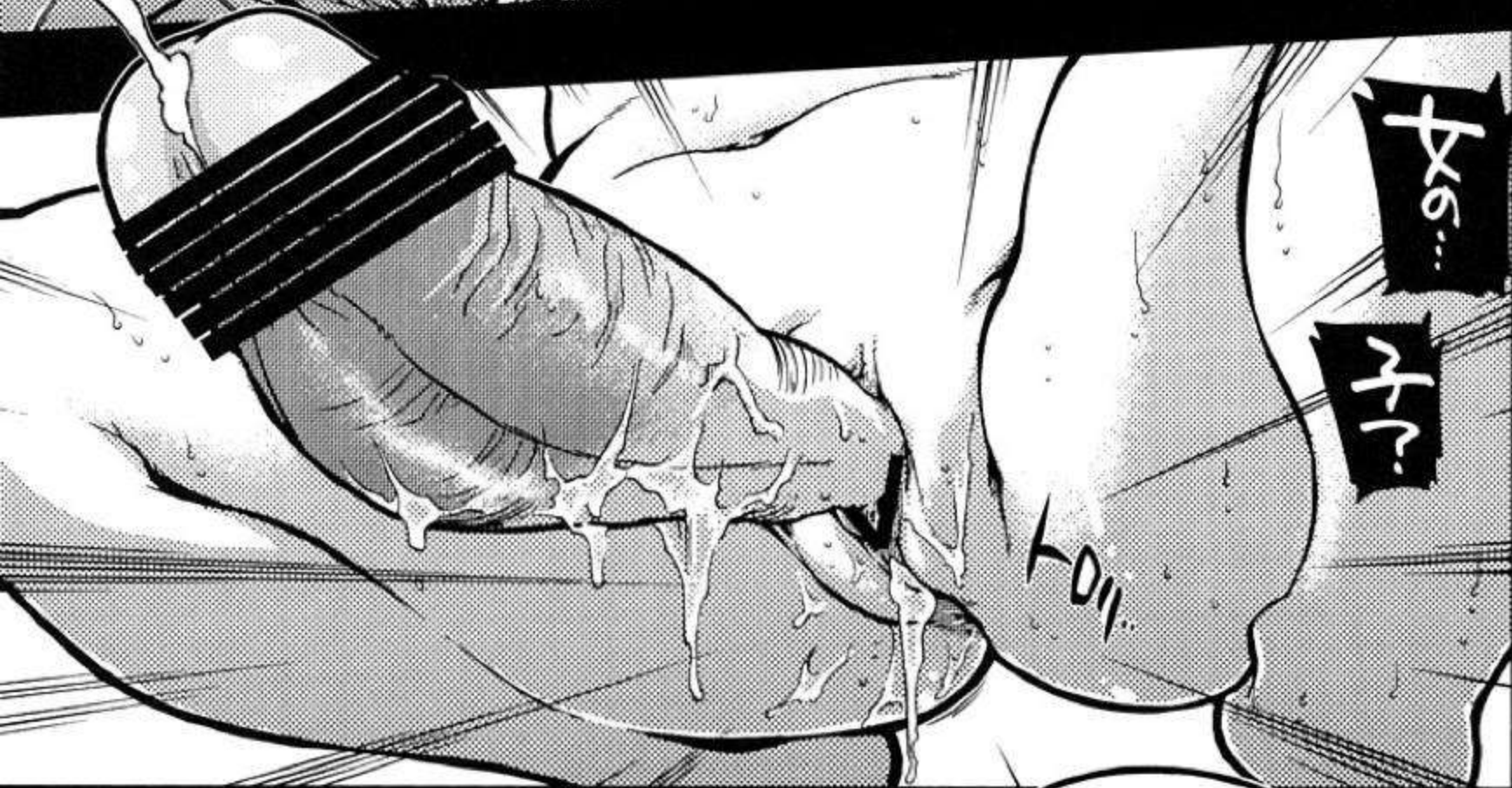


脳まで「教育」された人間がどうなるか…

教えてやりますよ

じっくりと
身体にね…







まーす♡

んあっ

んあっ

んあっ



んあっ

んあっ



んあっ

ちよ...待って
こんなっ...
そんなにあったらっ



んあっ

んあっ



んあっ

んあっ



んあっ

んあっ

んあっ

舌入ってるっ 奥まで
えくって...



んあっ

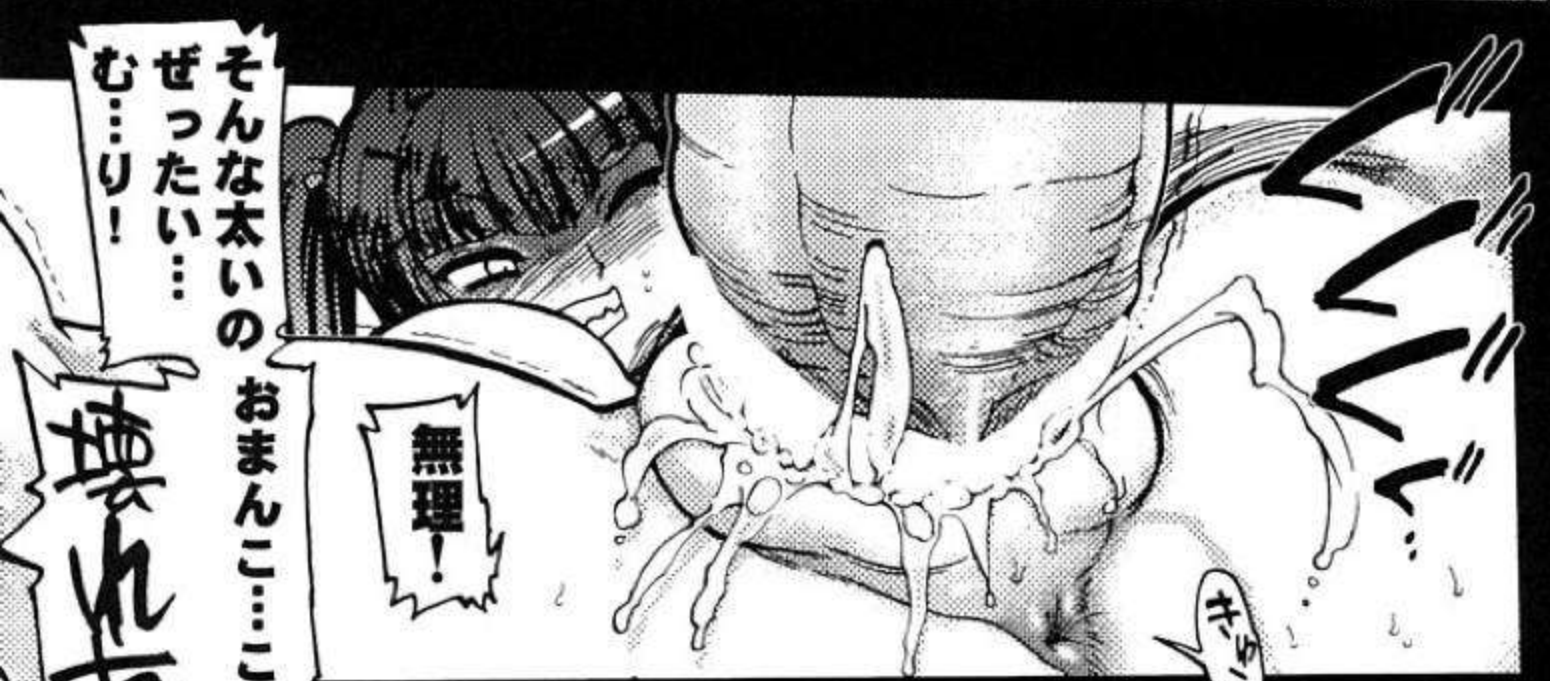
んあっ



ほう…
女同士の方が
反応がいいな

くく…少尉を
まだ女と呼べるかは
私ですら疑問が
ありますがね

やっておいて
よく言う



無理!

そんな太いの
おまんこ…こっ
ぜつたい…
む…り!

壊れちゃう



あ
あ

あ
あ

壊れる

おまんこ
壊れる

あーあーあー
あーあーあー
あーあーあー

へへ：仲間も呼んで
来てやったぜ

フェルト？

クリステイ？！

おらん追加を

あーあーあー
あーあーあー
あーあーあー

あーあーあー
あーあーあー
あーあーあー

あ

あー

あー

あーあーあー
あーあーあー
あーあーあー

あー



こっちは
こっちで
盛り上がるうぜ

へへ…
人革連特製
あやしい液体
登場

いやあ〜

うほっ
22歳の
ムチムチおっぱい♡

いっぱい塗り
込んであげるね

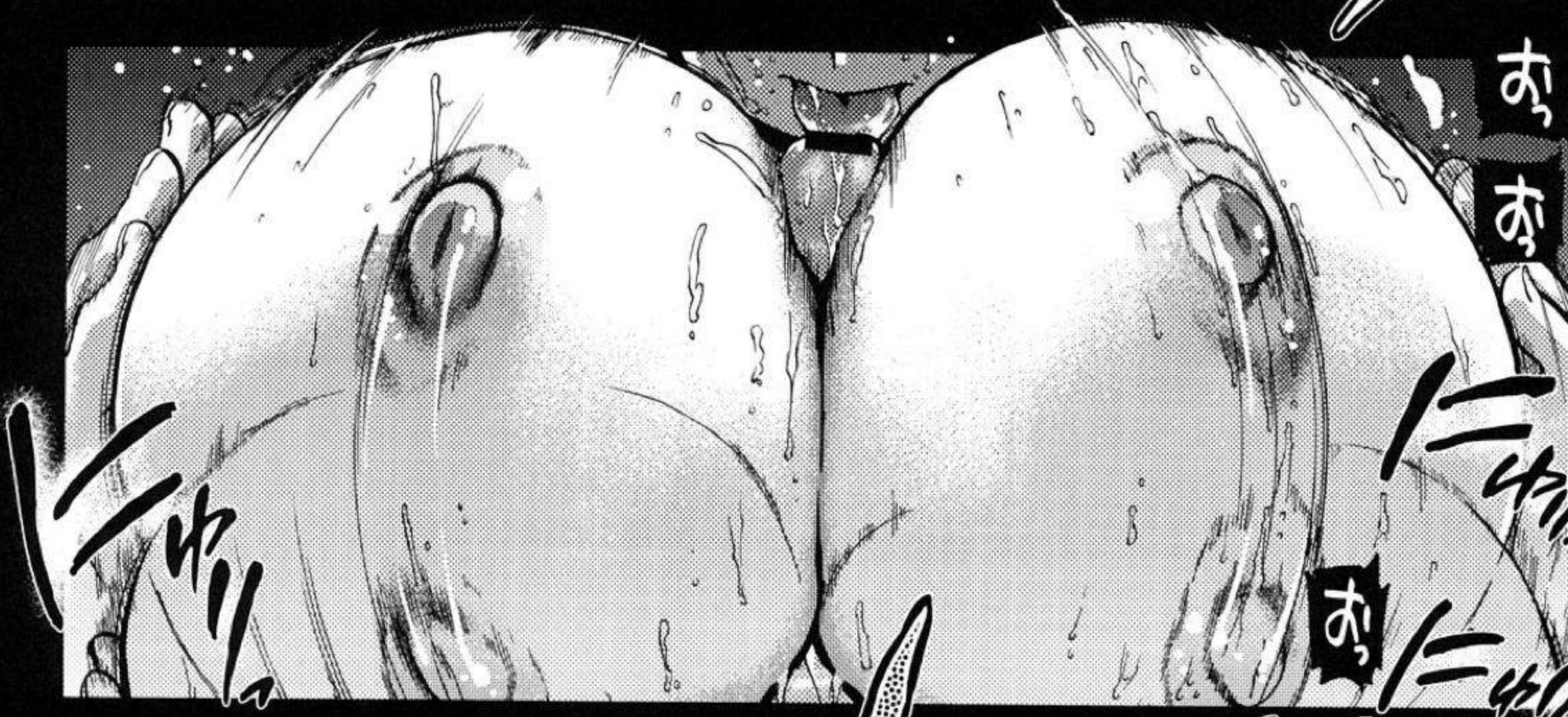
もう効いて
来た？

じゃあこのでっかい
おっぱいで
手使ってね



すっげ
柔らけえ！

ハハハ
お
ハハハ



お
お
ハハハ
ハハハ



ハハハ
ハハハ

ハハハ
ハハハ



さあそろそろおまえの
クン穴に特製精液
ぶちまけてやるぞー

嫌

その後！

膣も！

喉も！

穴という
穴全部！

犯してやる！

私の！
特製精液で！

全身っ

精液漬けに！
してやる！

尻で！膣で！喉で！
感じて堕ちろ狂え！

壊れて

しまええー

あ

たぬー
感じてる
おまんこ
おまんこ
おまんこ

あー
おまんこ
おまんこ
おまんこ

おまんこ
おまんこ
おまんこ



あー
あー
あー
あー

あー



あなたも

しっかり

「教育」して

あげる

私のように…

全部…

忘れるくらい

ね

TIEREN

MSJ-06II-A





MOBILE SUIT GUNDAM 00

この世界に
神は居ない

あれから何時間……いえ、何日経ったのか。

もう時間の感覚すらわからないほど犯しつくされ、蹂躪されつくした世界で、それでもなお執拗な責めが私を襲っている。

とつとつと身体も精神も限界を超えているのに、彼らは決して責めを緩めることはなかった。気絶して意識を失っている以外は、ずっと責めが続けられている。

気を失っている間にもおぞましい薬を投与され、眼が醒める度に少しずつ身体が変化させられていることに気が付く。胸はスイカのように膨れ上がり、生殖器は赤く充血したままとめどなく蜜を溢れさせている。

敏感になった乳首を執拗に弄られ、薄皮が剥かれてピンク色に腫れ上がっている。空気に触れるだけで悶絶するような刺激が胸を灼く。

ぐりぐり……

「はぐっ！ はぎいいい……あう、うああ……」

硬い筆で敏感な乳頭を擦られると、頭の中にびりりと電流が走り、黒い刺激が背筋を駆けめぐる。翻弄される身体は快楽にびくびく震え、足の裏まで痙攣するばかり。

「ひっ、ひいいいっ！ も、もう……あ、あたまが……ひいいい……」

男達は私の哀願を耳にしながらから薄ら笑い、罵りの声をあげた。

「よし、出すぞっ！ 奥で出されている感覚を覚え込めっ！」

教化委員の男が常人離れたペニスを子宮口に突き入れた。

「ぐぶぶっ！ はひっ、うああ……ま、また……もうやめ……」

何千回となく突きまくられ、襲の一枚までしゃぶりつくされた膣内が、薬のせいで恐ろしく敏感になっている。男の欲望が膨れ上がり、私の子宮に精液を吐き出す瞬間がはつきりと分かっってしまう。

女の尊厳を根こそぎ奪い、屈辱を植え付けるための儀式。

「くっ……や、やああ……！」

「がっ……や、やああ……！」

強化されたペニスがミリミリと膨れ、おびただしい精液を

子宮口に噴出すると私の意識は虹色の嵐に吹き飛ばされた。

女の源泉を汚されながら、強制的にイカされる——！

「うあ、うくううっ！ ひっ、い、イクウウウウウっ！」

熱い白濁液が子宮に注ぎ込まれるのを心に焼き付けながら、私はよだれを振りまいてはしたなく絶頂した。

「はひっ……とまらな……まだっ！ まだイクッ！ ああ、ひいいいっ！ イクッ！ ああ、精子が子宮に……！」

入るたびにイクッッッ！」

白濁液まみれのラヴィアが脊髄反射の命令で男のペニスを

キユウウツと締め付け、ペニスに残った精子を絞り上げる。

ビュルッ、ビュルッと残滓が飛ぶと、その度に子宮が痙攣して

絶頂の魔界をさまよう。

深層意識への暗示と条件付けのせいで、私の身体は射精を受けて

精液を感じるたびに強制的に激しいエクスタシーを感じるように

にされてしまっているのだ。

肉体の限界を超える刺激に、首ががくんと揺れた。朦朧とした意識の中で、

肉体の快楽だけがナイフの様に鋭く刺さり、なすすべもなく巨大な胸を揺らしてイキ狂った。

「がふっ、ぐふう……ま、またイツちゃ……あうう、はひっ……か

はっ……あぶぶ……」

絶え間ない絶頂に酸欠になり、身体を痙攣させながら酸素を

求めて口をパクパクさせる私を見下ろし、教化委員は満足そう

に乳首を指で弾いた。

「あっ……ふ、はああ……」

びくん、と反応する胸をもう一度弾き、男はまだ隆々とした

まま萎えないペニスを一気に引き抜く。

ズブズブ……

「おほっ……あうう、め、めくれちゃう……！」

快楽の余韻でひくつく膣道が、ペニスにびつちりと張り付いて

いるのを無理矢理に引き抜かれ、身体がでんぐり返るような

感覚に呻いた。

「ああ……ひいいい……」

常人のサイズをはるかに超える凶悪なペニス。巨大な龟头が

敏感な膣肉を擦り上げ、私を存分に騷りながらぬぼん、と音を

立てて膣口から引き抜かれる。

湯気を立てた花弁はだらしなく穴を開け、充血した淫唇が屈辱に震えている。ほっかりと開いた穴はヒクヒクと蠢きながら

も催淫剤と精液が合わさった白い液をこぼこぼと吐き出し、太ももを伝って雫を垂らしていた。

「さあて、栓をしてやろう」

「やああ……もう、もういやあなのお……」

あつくて……おまんこの中、熱くていやあなのお……」

特殊な催淫剤は新鮮な精液と反応し、より一層効果を増加

程なくして身体の奥があつ、と熱くなってくる。

（ま……た、狂って……！）

膣の中がジクジクと侵され、身体を狂わされる恐怖に震えた。

この薬のせいで、男達が休んでいる間も私は一人恥辱に身を

よじり続けるのだ。

「やめえ……」

懇願もむなしくズブリッ、と太く長いディルドが押し込まれ、

汗で光る首筋を仰げ反らせて呻いた。子宮に満ちた精子に脳が

焼かれて意識が遠くなる。

「ひああ……あつい……あついのお……ひいいい……」

「それでは最初からいこうか。貴様の名は。目的はなんだ？」

「ひいいい……抜いて……にゅいてえ……あついいい……」

「言え。言わなければ、今度は豚に犯させるぞ」

朦朧とした意識の中で、犬に犯されてイカされた記憶が甦る。

貴族であった自分を屈辱にまみれさせ、人間以下に落とされた

消せない記憶が。

「ああ……わ、王、王留美です……！ ソレスタルビーングの……」

エージェント……！

ガチガチと歯を鳴らし、媚びるような目でそう言った。

「貴様の犯した罪を告白しろ」

「お願い……！ 熱くて……狂っちゃう……！」

恐怖とは別に、身体はもはや耐えられない。お腹の中が熱い。

むず痒さと切なさ広がる。呼吸するだけでも鋭い刺激が身体

を奔り、軽く達してしまう。

じつとしていても快感がさざ波のように響き、押し広げられ

た膣口からピューッと愛液が噴き出す。





「言わなければ永遠にそのままだ。狂い死にしたなら、その姿を全世界に晒してやる。精液にまみれたままの身体で、手足を切り落として磔にしてな」

がふつ、と息を詰まらせて、私は呆然としながら叫んでいた。脳裏には惨めで無様な自分の死体を想像しながら。

「ああ……わ、私は犯罪者ですっ！ 誇大妄想に取り付かれ、世界中に厄災を振りまいただけの……！ 罪深き犯罪者、唾棄されるべき人民の敵ですっ！」

幾度と無く口にさせられた断罪の言葉を叫んだ。これで身体を襲う狂おしい感覚を少しでもごまかせるのなら。

「貴様の言葉にはまるで反省の色がないな……」

私のほんの少しの甘えすら打ち砕くように、男は冷たく言う。私は失禁しながら叫んだ。

「そつ、そんなことありません！ こ、この罪深い犯罪者を裁いてください！ お許し下さい！ お慈悲を！」

私の心はもう限界だった。私は本心からそう叫んでいた。

ここから先の地獄を思うと、かすかに背筋が戦慄した。だが、今の地獄から逃れるためなら先のこととはもうどうでもよかった。

太いデイルドが引き抜かれ、精液をピューピューと吹き出しながら絶頂する私を蹴り倒し、教化委員は再び禍々しいペニスをひくつく膣にこじ入れていく。

「ひく、ううううううっ！ まつ、まだっ……！ まだ精子が……精子を出させてくださいっ！ いやっ、いやあああ！」

子宮に溜まった精液を出す間もなく、脈打つペニスが私の身体を貫いた。

頭の中がスパークし、ぐるぐるとうめき声を上げて絶頂してしまう。愛液と精子が混ざり、結合部からぶくぶくと泡が吹く。

ずつ、ぐちゅつ、ぐりつ！ ずちゅん！

ぼろ切れのようになった私の身体を容赦なくピストンが襲う。

「ああ……ひぎ……えうっ……ひ……」

「貴様は全人民の敵だ。人間のクズだ。人革連の大いなる慈悲により生かされているに過ぎん。それを分かってやる」

「……！！ あ……いや……ああ」

男達は私を壊すためにあらゆる穴を犯しまくった。もちろんお尻の穴も例外ではない。髑り続けられ、ザクロのように膨れて血がにじむアナルにパイプが突き入れられ、直腸を抉られる。

中でパイプが竜のようにね回ると、私は白魚のように身を跳ねさせてのたうった。

「あがぎやあああああああつ！ ひつ、ひううううぐうつ！ 死んじやうつ……！ むうつ！ うぎいいいいつ！」

「死ぬると思うなよ。さあ、貴様の名前と目的を言え。貴様が自分を取るに足らんクズだということを理解するまで終わらんと思え」

ペニスが子宮口を叩く度にいき、お尻の穴を蹂躪される度にいく。考えることも、息をすることも許されず、狂おしい絶頂が私を消してゆく。

楽になりたい。壊れてしまおう……！

「はぐうううううう……！ ひああああ……あぐつ、うぐううつ！ ころし……ころしてえ……！」

しかし、私には自殺する権利すらなかった。

念入りに調整された暗示と深層意識への刷り込みが私という存在をただ辱められて快楽により狂う牝に作り替えてしまっているのだ。

死ぬことも許されず、断罪され、辱められ、狂わされる。男達の精子を受け、身体を汚され、嘲りをうけ、断罪されるだけの、ただそれだけの存在。

「わ、わたしは……わん、りゅーみん……それすたる……びーんぐの……」

その時、教化委員のペニスが痙攣する子宮口を激しく突き、私は泡を吹いて悶絶した。

ぎゅるるるる……

2

「はあ、ふう……はあ……」

眼も虚ろのまま、懸命にこらえる私を皆様は優しい目つきで見えています。

「よし。それでは皆さんにご挨拶しろ」

「はい……」

私は、ソレスタル・ビーイングのエージェント、王留美です。

ですが、私は生まれ変わりました。人類革新同盟軍の寛大なるお慈悲と教育により、正しき道に戻ることが出来ました。心よりお礼を申し上げます」

私はとびきりの潤んだ目で皆様を見つめ、おまんこが熱くなるのを感じながら口上を続けます。

「今日は……みなさまに私の反省心をお見せし、お詫びするために頑張ります。皆様の愛玩となつてたくましいおちんぼを頂き、精液をこの淫らで罪深い身体に注いで頂きたく存じます。……ううつ……そ、その前に、忠誠心を示すためにも私の排泄を御覧……ください……！」

皆様は軽蔑しきつた目で私を嘲り、それでも欲望に満ちた顔を露わにして私のお尻を凝視されました。

「ようし。それでは始める。ちゃんとやれば約束は守つてやる」

「はい……あうつ、はうううう……」

浣腸液で満たされたお腹がぐるぐる、とはしたなく鳴り、私は便器の上にまたがりました。

私の仕事は人革連に尽くすこと。人革連の命令に従うこと。それだけがわたくしのしめい。

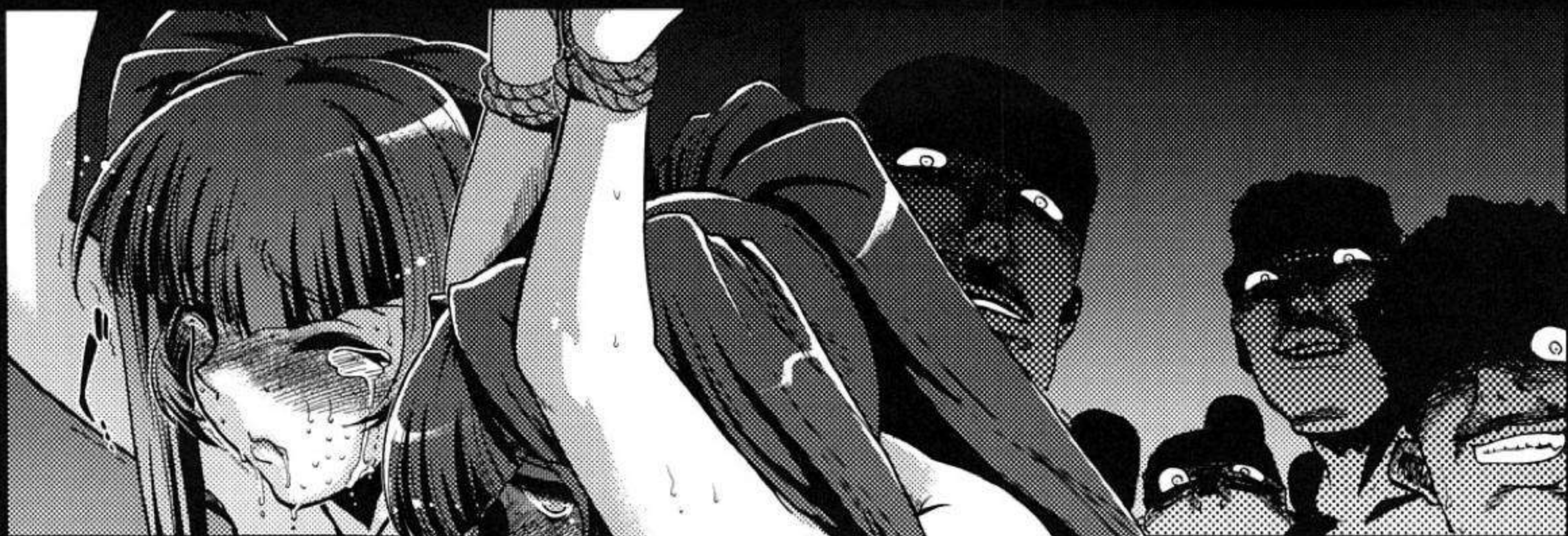
他のメンバーも、私と同じように教育され、清らかな心を持つことが出来たそうです。

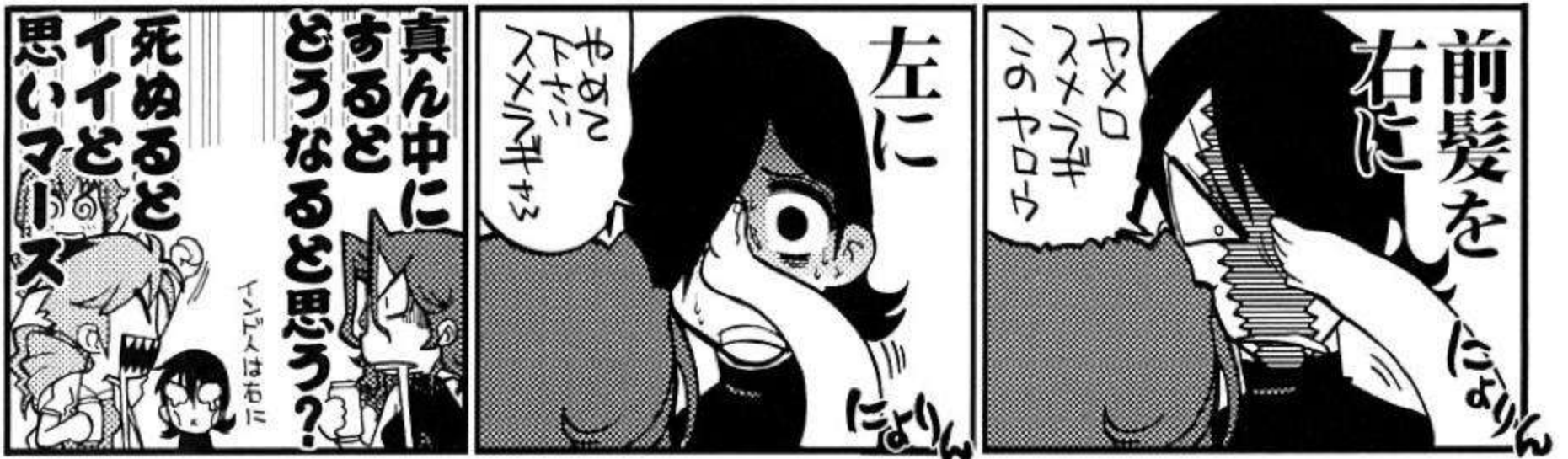
もう私に邪な私心など微塵もありませんが、ただひとつ、任務を上手くこなしたならば褒美を頂けることになっています。

ピーリスさまのような、りっぱなおちんぼをつけて頂くこと。わたくしは、もう、おちんぼなしでは生きてゆけないのです。りっぱなおちんぼをつけて、みんなと仲良くしたい……

世界中のみんなと——

お尻の力を抜くと、盛り上がったアナルがくぼつと開き、私は解放されました……





この世界に神は居ない 終



松本ドリル★研究所
Matumoto ★ Drill ★ Laboratory

著者 ながの〜ん かつみ義幸・なす
doriken2@mail.goo.ne.jp
http://chiba.cool.ne.jp/doriken/top.htm

印刷 AXIS 出版株式会社

